

令和 5 年 6 月 17 日現在

機関番号：23901

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19K00851

研究課題名（和文）外国語教育における性的少数者への配慮に関する調査研究

研究課題名（英文）A Study on Consideration for Sexual Minorities in Foreign Language Education

研究代表者

糸魚川 美樹（Itoigawa, Miki）

愛知県立大学・外国語学部・准教授

研究者番号：10405152

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,000,000円

研究成果の概要（和文）：近年注目されている性の多様性の尊重という社会的課題に、大学の外国語教育が取り組むための課題を考察している。大学における、英語以外の外国語教育は、初めて学習するという前提で、基本的な文法を習得し、それを使ったコミュニケーションや情報発信が求められる。その際に学習者自身について語ったり、日常生活について語ることが求められる。その際に性の選択、性の開示が伴う場合がある。また、日常を扱うことで、ジェンダー規範や異性愛主義が意識されにくく、マイノリティを排除する可能性がある。このような問題について、さまざまな言語で取り組まれているジェンダーインクルーシブな言語に関する調査とともに検討する。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の目的は、大学の外国語教育におけるジェンダー平等及び学習者及び教授者の性の多様性の尊重に資することである。大学においても性の多様性への対応が求められ、修学環境の整備が検討されつつある。しかし、授業運営のあり方については、科目担当者に任されていることが一般的である。外国語教育は日常的なテーマを扱う分野であるため、無意識的に性的少数者を排除している可能性がある。逆に、意識的になることで、外国語教育は、ジェンダー教育の場にもなる。

研究成果の概要（英文）：This work aims to review, consider and improve the teaching of foreign languages in university education from gender studies, focusing on the teaching of Spanish as a foreign language (ELE). In ELE classrooms, especially at the initial level, students find themselves in a situation that practically forces them to show their gender identity or the sex assigned at birth, presenting themselves in Spanish that they have just begun. For most it is not a complicated situation. However, it can cause some concern or anxiety, especially for some people who feel discomfort or disagreement between their gender identity and the one assigned at birth. In other words, Spanish classes, especially at the initial level, can become an unsafe space for LGBTQ+ people. This is the starting point of this work. These themes are explored alongside research on gender-inclusive uses of various languages and their ideologies.

研究分野：外国語教育

キーワード：外国語教育 スペイン語 性的少数者 ジェンダー セクシュアリティ

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

大学の外国語教育、とくに「初修」外国語教育では、授業中や学習の過程で、学習言語で学習者自身や学習者の日常生活についてかたることや記述することが求められる場合がある。外国語学習において、学習言語でのコミュニケーションや情報発信が重視されることで、学習者自身について学習言語でかたることも、身につけるべき能力としてシラバスに組み込まれている。学習者が、社会のマジョリティである場合、クラスメイトや教授者に学習者自身についてかたることは、それほど負担にはならないかもしれない。しかし、社会的マイノリティである場合、このような活動は学習者にストレス、不安、疎外感などを生じさせる可能性がある。性の多様性の尊重という視点から、さまざまな言語で包括的な用法(ジェンダーインクルーシブな言語使用)の取り組みがされているが、外国語教育には反映されにくい。外国語教育の教材の例やダイアログの登場人物は、その社会の「典型」であり理解されやすい一方で、「典型」ではない人を「排除」することもある。

2. 研究の目的

本研究の目的は、大学の外国語教育におけるジェンダー平等及び学習者及び教授者の性の多様性の尊重に資することである。大学においても学生や教職員の性の多様性への対応が求められ、修学環境や労働環境の整備が検討されつつある。しかし、授業運営のあり方については、科目担当者に任されていることが一般的である。とくに、学習者自身や学習者の日常生活についてのかたりが求められることがある外国語教育においては、配慮が必要であるが、その課題について研究されてこなかった。外国語教育を通じて、学習者が出会うジェンダー観やセクシュアリティ観がどのようなものであるかを具体的に記述し、その課題を抽出する必要がある。

3. 研究の方法

1. スペイン語を中心に、ジェンダーに関する包括的な言語使用について調査する
2. 大学における外国語教育とくに「初修」外国語教育を通して、学習者がどのようなジェンダー観、セクシュアリティ観に出会うかについて、スペイン語教育を中心に明らかにするとともに、ジェンダー論における多様な概念と結びつけて検討する
3. 学習者が安心して外国語学習にとりくむために、どのような資源が活用できるかを、国内外で調査する

4. 研究成果

さまざまな言語でジェンダーインクルーシブなとりくみが進められている。ロマンス語においても、近年とくにこの議論が活発になっている。その中で、本研究ではスペイン語とスペイン語教育をジェンダー論や性の多様性という視点から考察対象とした。

スペイン語は、フランス語やイタリア語と同様、名詞の分類である文法上の性を有する言語である。その分類に、男性・女性という性の二分法を用いている。人を表す名詞の性は、指示対象の性別に一致すると一般に理解されており、その一致の度合いはロマンス諸語の中でもっとも強い。話者は自分のことを述べる際、性の選択を迫られるため、性二元論の強化と性の多様性の不可視化も問題となっている。さらに、文法上の男性と女性は対称的ではなく、男性が総称的に使用される。男性が1人いればその集団は男性形であることから女性の不可視化が問題とされてきた。しかし、典型的な男性のみが可視化されるという問題が指摘できるが、この性の性質が文法に組み込まれているということから、性の二分法を放棄するということは言語の構造を大きく変えることを意味するため反発も大きい。

この間、性の多様性に関連して、言語においてもさまざまな現象が観察された。たとえば、SNSを中心に広がりつつあった、男性形でも女性形でもない語尾-x、-eの使用が、それ以外の場にも広がっていった。これらの語形は、男性形の総称的用法を回避するために使用されることもあれば、女性・男性に分類されたくない人が自分自身に対して自己表現のために用いたり、またはそれを支持する人が他者に対して配慮を示す用法としても用いられている。また、性的少数者の可視化、包摂を主張するものとして象徴的に使用されることもある。これらの使用は、ドラマや演劇などのセリフにも見られるし、アルゼンチンやチリではレポートや論文執筆においてもこれを認めている大学が出てきている。使用空間の広がりや、これらの語形とそれによって意味されるものがスペイン語圏社会で共有されつつあることを示している。

性の多様性に対応しにくいというスペイン語の性質は、スペイン語学習者にとっても問題となる。性自認が出生時の性別と一致しなかったり、割り当てられた性別に違和感を抱く学生は、学習に際し、文法上の性の選択において何らかのストレスを感じる。教室という場では、教授者が持っている名簿に記載されている性と学習者が自分自身を表現するために選択する性が異なる場合や、そもそも性を選択しなければならぬということ自体が学習者にとって負担になる場合がある。典型的な性別役割、ジェンダー規範、異性愛規範、性別一致主義に基づく教材や授業運営は、学習者の性自認を否定する可能性もある。このことを、マイクロアグレッション、インパ

ライトネスなどの概念と結びつけ検討した。

ただし、スペインでは、教育ジェンダーの視点を取り入れる取り組みが多くある。たとえば、義務教育では、包括的な言語使用のガイドラインがある。カタルーニャの大学連合組織が、各分野の授業におけるジェンダーの取り扱いに関するガイドラインをカタルーニャ語で作成しており、それがスペイン語やガリシア語に翻訳されて他地域の大学でも使用されている。日本では、1990年代以降自治体を中心にジェンダー表現ガイドラインが作成されており、近年性の多様性の尊重として視点からそれを改訂する動きがある。これらは自治体の職員向けのガイドラインであるが、教材作成のガイドラインとしても参考となる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 糸魚川美樹	4. 巻 55
2. 論文標題 ジェンダーに関する包括的言語使用(lenguaje inclusivo)について - スペイン語を例に-	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ロマンス語学研究	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 0件/うち国際学会 3件）

1. 発表者名 糸魚川美樹
2. 発表標題 lenguaje inclusivoについて
3. 学会等名 関西スペイン語学研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 糸魚川美樹
2. 発表標題 大学外国語教育における「表現ガイドライン」
3. 学会等名 情報保障研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 糸魚川美樹
2. 発表標題 「包括的言語使用」をめぐる議論 - スペイン語を例に
3. 学会等名 日本ロマンス語学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 ITOIGAWA Miki
2. 発表標題 Problemas con el genero gramatical en la ensenanza del Espanol como Lengua Extranjera (ELE) en Japon
3. 学会等名 II Congreso Internacional de Diversidad Sexual y Genero en la Educacion, la Filologia y las Artes (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 糸魚川美樹
2. 発表標題 外国語教育における性的少数者への配慮
3. 学会等名 情報保障研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Itsuko FUJIMURA, Miki ITOIGAWA
2. 発表標題 Le <<sexe>> et le genre des noms d ' humains dans leur usage epithete : etude contrastive francais-espagnol
3. 学会等名 Entre masculin et feminin... Approche contrastive : francais et langues romanes (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Itsuko Fujimura, Miki Itoigawa
2. 発表標題 The " sex " and the grammatical gender of human nouns in their attributive usage: a French -Spanish contrastive study.
3. 学会等名 LIV SLI Congress CORPORA AND LINGUISTIC STUDY (国際学会)
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

本研究課題に関連して、読売新聞から取材を受け、2022年10月14日付け朝刊「ニュースの門」で言及されている。

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	塚原 信行 (Tsukahara Nobuyuki) (20405153)	京都大学・国際高等教育院・教授 (14301)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------